

今知って
おきたい!

連携・接続のキーワード

幼保小の 架け橋プログラム

※「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることをめざすものです。

※山口県では、子どもの成長していく過程にならない、「保幼小」としています。

手引きや動画もあります!

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)

令和4年3月31日
文部科学省

詳しくは、文部科学省のHPへ!

幼保小の架け橋プログラム



カリキュラムの イメージ

架け橋期のカリキュラム

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携して作成するものです。

	0歳~	5歳児	小学校1年生	小学校2年生~
共通の視点として考えられる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像				
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等		5歳児~小学校1年生(架け橋期。0~18歳の学びの連続性に配慮)について、 ・共通の視点から考えてみよう ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう(架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう) ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう(架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう)		
④指導上の配慮事項	先生の関わり			
	子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり(※)			
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				

Point!

5歳児から小学校1年生までの2年間の「架け橋期」について考えましょう。

園と小学校がバラバラに作るのではなく、共通の視点で貫きましょう。

「カリキュラム」の形にすることで、担任や担当が変わっても、子どもの育ちと学びのつながりが保障されます。作成した後も、子どもに関わる大人みんなが、カリキュラムの実践、検証、改善のサイクルを回していきましょう。

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター
〒753-8501 山口市滝町1番1号(県庁15階)
Mail:a50908@pref.yamaguchi.lg.jp
Tel:083-933-4450 Fax:083-933-4456

